

平成25年度 事業報告書

平成25年 8月 1日から 平成26年 7月 31日まで

特定非営利活動法人 東京ノーヴィ・レパトリーシアター

1 事業の成果

・演劇の公演事業

1) 10ヶ月のレパトリー公演

<活動の背景>

2009年に演劇サイト「CoRich舞台芸術！」が発表した数字では、東京の演劇団体は1880団体（次位は大阪の187団体）。関東圏は全国の71%を占めています。この数字を見ると、関東圏を中心とした文化芸術活動は実に盛況を極めていると言えそうです。けれども、これらの団体の活動の中で「同じ一つの作品を繰り返し上演しながら、作品の内容を深めていくレパトリー作品をベースとした上演活動」は、ほとんど見られないのが現状です。

舞踊、音楽、日本の古典芸能など、舞台芸術の他のジャンルでは、それぞれ古典のレパトリー作品を持ち、そのレパトリーを繰り返し上演することで、作品と実演家のレベルを上げ、その事が同時に観客を育てていく環境を作ります。海外の歌劇場や国立ドラマ劇場なども含め、レパトリー作品を通じた芸術教育・普及は、世界的には当たり前ですが、残念ながら日本の現代演劇界には見られなくなっています。

また、近年の演劇界では、チケット料金が高騰化し、劇場から人を遠ざけ、舞台芸術の普及を阻んでいることも新聞等の記事で指摘されています（日経新聞2013年8月20日掲載記事、その他）。全体では活況を見せながら、実は脆弱な文化環境が伺えます。

<実施した活動の課題と成果>

東京都墨田区にあるシアターX劇場との共同事業として、今年度も「チケット料千円」で、古典大作2作品の上演を続けました。本来、経済的には成立しない公演活動ですが、「それまで劇場に足を運ばなかった、新しい観客層が生まれてきている（劇場サイド）」ことや、今回「認定NPO」取得のための寄付を募集した際に、寄付者の9割が、私たちの公演を観たお客様からのものであることも、活動の成果と言えると思います。

以下は、私どもの公演を観た方から、寄付と共に送って頂きましたメッセージです。

「学生時代を過ごした旧ベルリン、又、壁をこえて行った旧東ベルリン。500～1000円で毎日のようにオペラや演劇が観られました。レパトリーシアターが日常にある生活が、商業主義の今の日本について、やっと実現した喜びで勇気が湧きました。何より劇団の皆さんの真剣なまなざしに打たれました。（中略）どうかこの古典のすばらしさの中に未来へのヒントがあることを多くの人に知ってほしいです。（女性／50代／作曲家）」

（※寄付者からの応援メッセージの全体は、HPで公開しています。）

ただし、経済的な面では今年度も大きな赤字を抱えてしまい、今後、新しい戦略を展開できるかは大きな課題として続いています。

2) 新作公演『ゴドーを待ちながら』

ノーベル文学賞作家サミュエル・ベケットの代表作『ゴドーを待ちながら』を実験的に上演、公開しました。ベケットの代名詞になっている「不条理演劇」は曲解されている現状です。ベケットの描いている「誰もが共感する“人生の真実”」を描き、観客に提示するという課題は、今回の限定的な上演だけでも十分な手ごたえを得ました。次年度のレパトリー演目に加え、広く公開していく予定です。

<実施した活動の成果（アンケートより抜粋）>

- ・初めて観る演目で、不条理と聞いていましたが、全く不条理に見えませんでした。とてもわかりやすかったです。人を苦しめるのは、あるべき人間像なのではないかと思いました。（女性・40代）
 - ・見ているうちに”能”を連想しました。能舞台の背後に描かれた松、ゴドーの一本の木、能の言語を絶した世界、ゴドーの多弁の世界、同じではと思えました。また見たいです。（男性・60代・無職）
 - ・なんや『本』よりおもしろいやんけ!!「ゴドー」ってマンザイやったんか!!（男性・40代・編集デザイン）
 - ・「ゴドーを待ちながら」は以前に本を読んだことがあります。ベケット作品はなんだか別の劇団で拝見したことがありますが、いいまでみたものの中で一番良くベケットの考えが伝えられてるものだと思います。本当、ためいきと涙、そして笑い。まだぐるぐる廻っています。（男性・30代）
- （※観客アンケートの全体は、HPで公開しています。）

3) 新作公演『あめつちはじめの物語～古事記より～』

10月に初演予定の、神話「古事記」の舞台化作品の一部を、「国際舞台芸術祭（IDTF）2014」のオープニング公演として上演しました（今回の上演は「天地開闢～国生み、神生み」まで）。

「現代人が失ってきた、様々なものとの精神的な繋がりを取り戻すための試み」として、1年以上にわたる、研究とリハーサルを重ねています。尚、この作品作りにおいては、外部から狂言師、舞踊、民謡、パントマイムその他の方から指導・教育を仰いでいるだけでなく、神道、仏教の宗教家、研究者の方にも作品作りに協力を戴いています。

・人材育成支援事業

1) 「東京インターナショナル・スタニスラフスキー・アカデミー」開校。

<活動の背景>

現在、日本では演出家（指導者）養成を対象にしたカリキュラムがありません。これまで10年にわたり、俳優養成のマスタークラスを行ってまいりましたが、結局のところ、新しい演技システムを学んだ俳優を使って作品を創っていきける演出家、指導者の育成がなければ、質的な変化がもたらされないという考えがありました。

<実施した活動と成果>

ロシア演劇大学で行われているカリキュラムを元にした、10ヶ月間の育成コースを実施しました。特にカリキュラムの中で重視されたのは、「戯曲の“行動”分析メソッド」です。育成のカリキュラムには様々なメソッド、方法論がありますが、当団体の芸術監督が日本で10年間教えてきた経験の中で、「“行動”分析メソッドが日本人の性質に一番合ったカリキュラム」との判断から選ばれました。

俳優コースの生徒と演出コースの生徒がグループで一緒に学び、10ヶ月の最後に第1期生の発表会を行いました。現在、第1期生の多くが、次年度も引き続き第2期生となって学習を続けています。

以下、参考に第1期修了生のアンケートの抜粋を掲載します。

「ここ3～4年間に、短期間のマスター・クラスを数回受講したことがあります。確かに、毎回、目から鱗のような発見がありましたが、今回の10か月に及ぶアカデミーは「じっくり、ゆっくり」で、実に贅沢な体験でした。ことに、最近のマスター・クラスからみられるようになった「演出を学ぶ者と俳優として研鑽を積む者がひとつのグループを作って、ともに創造活動の第一歩を学ぶ」という試みには、なるほど短期間ではなく、最低でもこのくらいの期間（10か月）が必要だと実感しました。」（第1期終了生の全アンケートは、HPで公開されています。）

2) 社会人のための演劇クラス

当年度も引き続き、社会人のための演劇クラスを開催しました。当年度、受講者の発表公演は行われませんでした。1年間を通し上演作品の研究が続けられたほか、クラス生の何人かは当団体の本公演「古事記」舞台化作品に出演するなど、芸術監督のリハーサルに参加しました。

・国際文化交流事業

1) 国際演劇マスタークラス(専門家対象／一般対象と分けて開催)

当年度、韓国側からの開催の要望があり、日本、韓国、ロシア三ヶ国から参加者を募って、国際演劇マスタークラスを実施しました。「Life in Art, Live an Artistic Life ～芸術的人生を生きるには～」をテーマに、三ヶ国の演劇人が、10月4日～6日の間、計6回のスタニスラフスキーシステムの研究報告と学習を行いました。

上記企画の一環として、10月7～8日の2日間、「Life in Art, Live an Artistic Life ～芸術的人生を生きるには～」をテーマに、一般対象向けの公開クラスを行いました（2日間とも、1部は内外の文化人を招いての講演・討論会、2部に実践編という構成）。

・地域文化支援事業

1) 地域の学校支援活動

当年度も引き続き、町田市ゆくのき学園で演劇ワークショップを通じた学校支援を行いました。公立の学校では、中々授業日数を削れない関係で、短期間での効率的な指導やワークショップが要求されます。事前に先生方との入念な打ち合わせや、振り返りを重ねながら実施しました。

2) 長野県演劇講習会への講師派遣

今年度、主に高校生を対象として開催されている、長野県での演劇講習会に講師を派遣しました。

受講者は150名（内、中学生4人／高校生138人／専門学校その他8人）。事前ミーティングで、「舞台上で嘘をつかないことを体験してもらおう」という事が話し合われ、中高生を対象にカリキュラムを組んで実施しました。1日のワークショップの中で150名を相手にするという非常に限定された条件でしたが、主催者側が取ったアンケート集計などを見ても、非常に子供たちの関心をそそいだ事が伺われました。

その一方で、「発声を教えてほしい」「他校と交流したい」など、学校演劇に携わる側からの具体的な要求もありました。次年度以降の課題としては、受講対象側へ事前リサーチを徹底するなどを通し、より効果的なプログラムを組むことを考えています。

3) 地域でのチャリティー公演活動

当年度の、年末Xmas公演では、地元の子供たちだけでなく、「ふくしまキッズ 2013冬のプログラム」の一環として、福島の子供たちを招待、公演を観てもらいました。公演終了後には、楽器や踊りを交えたワークショップで交流しました。

・その他、目的を達成する為に必要な事業

前年度に引き続き、(株)苔米地ワークスとの共同事業で、「能力開発」のためのセミナーを開催しました。

2 事業の実施に関する事項
 <特定非営利活動に係る事業>

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲・人数	事業費の金額
演劇の公演事業	10ヶ月にわたり古典大作(2本)を、毎月千円の価格で公開し、「レパトリーシステム」公演の普及活動を継続。	平成25年9月～平成26年6月(20回)	両国シアターX(東京都墨田区)	40人	一般1,469人	9,939(千円)
	ノーベル文学賞作家ベケットの代表作『ゴドーを待ちながら』の実験上演。	平成26年2月(6回)	東京ノーヴィ・レパトリーシアター(東京都世田谷区)	20人	一般113人	
	日本の神話『古事記』の舞台化上演。次年度の本公演に先立ち1幕のみの上演。	平成26年6月(1回)	両国シアターX(東京都墨田区)	40人	一般100人	
人材育成支援事業	「東京スタジオスキー・インターナショナル・アカデミー」を開校。ロシア演劇大学でのカリキュラムを元にした10ヶ月に及ぶ教育コースを実施し、俳優と演出家の育成を行った。	平成25年9月～平成26年6月	東京ノーヴィ・レパトリーシアター(東京都世田谷区)	7人	一般15人	5,624(千円)
	社会人演劇クラスの開催。	通年	東京ノーヴィ・レパトリーシアター(東京都世田谷区)	3人	一般10人	
情報発信事業	海外文献の翻訳。現在、ロシアの演劇文献(2点)の翻訳を進めている。	通年	東京ノーヴィ・レパトリーシアター(東京都世田谷区)	3人	不特定多数	0(千円)
国際文化交流事業	「芸術的な人生を送るために」というテーマで、韓国・ロシアの演劇人を招聘、国際演劇マスタークラスを開催した。	平成25年10月(8回)	東京ノーヴィ・レパトリーシアター(東京都世田谷区)	40人	演劇人60人	724(千円)
	上記企画の一環で、国内外の文化人を招き一般者向けの内容で、講演会と公開クラスを開催した。	平成25年10月(2回)	両国シアターX(東京都墨田区)	7人	一般100人	
地域支援事業	町田市で継続的な演劇ワークショップを行い、学校教育支援を行う。	平成25年10月(2回)	町田市 ゆくのき学園	4人	中学生20人	46(千円)
	長野県演劇講習会に講師を派遣し、主に高校生を対象とした内容で、ロシアの演劇教育プログラムの体験をして貰った	平成26年5月(1回)	長野県ホクト文化ホール	4人	一般150人(高校生が主)	
	「ふくしまキッズ 2013冬のプログラム」に参加。毎年、地元の子供たちを対象に開催するXmasチャリティー公演に、福島の子供たちを招待。	平成25年12月(1回)	東京ノーヴィ・レパトリーシアター(東京都世田谷区)	20人	親子等35人	
その他、目的を達成する為に必要な事業	「能力開発」のためのセミナーを開催。	平成26年4月(1回)	勝浦ブルーベリーヒルズ	7人	一般15人	196(千円)